

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	スタートアップ支援施設運営事業、スタートアップ支援施設連携事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	経済観光文化局	所管課	創業支援課		平成24年のスタートアップ都市宣言や平成26年の国家戦略特区の指定を経て、創業の裾野を広げた福岡市では、ロールモデルという成功事例を生み出すために、起業家だけでなく、技術や資金、専門家、支援者、ネットワークなどが揃ったエコシステムを構築し化学反応を起こすような施設を運営するために平成29年4月に官民共働型のスタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」を開設。			
根拠法令	なし							
開始年度	平成29年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 創業して間もない企業、個人	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか Fukuoka Growth Nextを中心として、以下の事業を展開 ○ビジネスマッチング 地場企業や大手企業とスタートアップとの連携や投資を呼び込むためのピッチコンテストやビジネスマッチングを実施 ○成長支援プログラム スタートアップやエンジニア、デザイナーの成長に資するセミナーや勉強会を実施 令和5年度の実績 入居企業数(累計): 635社 ビジネスマッチング件数: 14,183回 投資件数及び投資額: 26社約53億円	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 令和6年度から、Fukuoka Growth Nextの運営体制を新たにして5年間の事業を行う。 KPIの状況に関わらず当面の間は継続。ただし、市内のスタートアップエコシステムがより充実し、本事業と同様な支援が可能な民間事業者が台頭する等、本事業を終了してもスタートアップの高い成長が期待できる場合は、事業終了も検討する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 地場企業との連携や資金調達の拡大などにより、スタートアップ企業が成長する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	成長支援プログラムやセミナー・ピッチ等のイベントを定期的実施する。	企業同士やVCとのビジネスマッチング件数が増加する。	販路拡大や投資拡大により、スタートアップ企業が成長する。	福岡市から新たな価値やイノベーションが生まれ、雇用創出や地域経済が発展する。			
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	実績	目標		
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	
	ビジネスマッチング件数	目標	14,000	14,000	25,000	R5年度	
		実績	24,218	14,183	—	—	
		達成率	173.0%	101.3%			
		目標				R年度	
		実績					
		達成率					
		指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標	実績	目標	
		スタートアップ企業への総投資額(千円)	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
			目標	4,000,000	4,000,000	10,000,000	R5年度
			実績	11,100,000	5,300,000	—	—
			達成率	277.5%	132.5%		
			目標				R年度
			実績				
			達成率				

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	入居企業の資金調達金額 ⇒R3n~R5n: 20社40億/年
施策コード	主	7-1-1			
	再	—			
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している				
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり				
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	211,089	
	特定財源	111,289	
	一般財源	99,800	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	152,434	432,019
	特定財源	32,000	100,411
一般財源	120,434	331,608	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	スタートアップ拠点都市形成事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 令和元年6月に内閣が設置した統合イノベーション戦略推進会議にて、今後のスタートアップ施策に関する戦略「Beyond Limits. Unlock Our Potential.～世界に伍するスタートアップ・エコシステムの拠点形成戦略～」が発表。 福岡市では平成24年からスタートアップ支援に力を入れているが、ユニコーン創出のため、大学発スタートアップの創出・支援が特に重要視されていることから、国の施策の機を捉え、福岡市の目標達成に向けた取り組みをさらに強化・加速させる。
所管局	経済観光文化局	所管課	創業・大学連携課		
根拠法令	なし				
開始年度	令和2年度	行政計画	政策推進プラン		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・市内スタートアップ企業 ・スタートアップ支援者	実施内容(事業手段) 令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○福岡スタートアップ・コンソーシアムの運営 国や関係機関との調整や幹事会の開催、コンソーシアム内における情報共有・連絡等を実施。 ○福岡の融資環境の改善に向けたワーキンググループ ○研究開発型スタートアップ成長支援補助金 研究開発型スタートアップ企業に対し、事業の推進に係る経費等を助成。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 福岡流エコシステムが確立され、継続的にスタートアップが創出され、成長できる状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・市内スタートアップ企業 →ユニコーン企業への成長を促進する。 ・スタートアップ支援者 →支援者間の連携を強化し、福岡流エコシステムを確立する。			

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	・幹事会の開催、スタートアップ関係の情報共有、融資ワーキンググループの開催等 ・研究開発型スタートアップ企業を公募	・スタートアップ支援者側の関係が強化される。 ・評価委員会による選定を経て、研究開発型スタートアップ企業の事業の推進に係る経費等を助成する。	・スタートアップ支援者が連携し、効果的に支援が可能になる。 ・スタートアップ企業の研究開発が更に進む。	・福岡のスタートアップエコシステムから継続的にスタートアップが創出され、成長できる。 ・研究開発型スタートアップ企業の革新的な技術が事業化される。		
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)		
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	
研究開発型スタートアップ成長支援補助金採択件数	2	4	4	R年度		
達成率	100.0%	100.0%	—	—		
目標				R年度		
実績				—		
達成率				—		
指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	最終年度	最終年度
ユニコーン企業の創出	5	5	5	R年度	R年度	R年度
実績	1	1	5	—	—	—
達成率	20.0%	20.0%	—	—	—	—
目標	100	100	100	R年度	R年度	R年度
実績	51	61	100	—	—	—
達成率	51.0%	61.0%	—	—	—	—

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		企業価値10億円以上のスタートアップ R1n(現状):32社 →R6n:100社以上 施策成果指標	
施策コード	主	7-1-1		
	再	—		
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している			
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり			
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	32,396	
	特定財源	0	
	一般財源	32,396	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	10,494	31,831
	特定財源	0	0
一般財源	10,494	31,831	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進			背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か AI・IoTなどの最新テクノロジーを活用して新しいサービス・製品を開発し、社会課題の解決や生活の質の向上を図る動きが加速しているなか、新たなサービスを生み出していくためには、テクノロジーの核心部分を担うエンジニアが不可欠であるが、その人材の雇用争いが激化している。
所管局	経済観光文化局	所管課	新産業振興課	
根拠法令	なし			
開始年度	令和元年度	行政計画	なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか エンジニア、エンジニアを目指す人	実施内容(事業手段) 令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ●エンジニアカフェの運営 ●エンジニア等からの相談対応、コミュニティの活動支援、イベント開催支援、情報発信、オンラインエンジニアカフェ運営 ●開発コンテスト、アワード等のイベント開催 ●賛同企業の募集 ●ホームページによるエンジニア、賛同企業、コミュニティ等の活動、イベントレポート等の情報発信 ●学生を対象としたエンジニア育成プログラムなどの人材育成 ●エンジニア関連イベントへの出席 ●エンジニアビザの運用開始	成果(見直し判断基準) どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか エンジニアによって生み出される新しいサービス等を通じて、福岡市の地場中小企業の成長や市民生活の向上が図られる。
	事業目的 対象をどのような状態にしたいのか 「エンジニアが集まる、活躍する、成長する街、福岡」の実現に向け、エンジニアと福岡市が協力し、エンジニアがここで働きたいと思うような街づくりを目指す		

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)				③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)				④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)					
	・エンジニアカフェを中心としたエンジニアの活動支援 ・イベントの開催やHP、他の媒体を活用した情報発信 ・学生をターゲットにした人材育成 ・エンジニアビザを活用した海外高度人材の集積		・エンジニアカフェの認知度が向上し、エンジニア等が集積する。 ・エンジニアコミュニティ活動が活性化し、エンジニアが学び、成長する機会が増加する。 ・地元学生や海外高度人材が地場企業に定着する。				エンジニアが学び成長し、活躍できる機会が増えることで、エンジニアの取り巻く環境が充実し、プロトタイプから起業までを含めたプロダクトの創出が促進される。				エンジニアによって次々と生み出される新しいサービス等を通じて、経済成長や市民生活の向上を図っていく。					
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定		実績				目標				成果の指標(KPI)		指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定			
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
相談件数	目標	470	530	R 年度		目標	10	30	R 年度		目標	10	30	R 年度		
	実績	520	509	530		実績	78	72	40		実績	78	72	40		
	達成率	110.6%	96.0%	—		達成率	780.0%	240.0%	—		達成率	780.0%	240.0%	—		
コミュニティ新規参加率	目標	25	25	R 年度		目標	—	40	R 年度		目標	—	40	R 年度		
	実績	53	49	25		実績	—	30	40		実績	—	30	40		
	達成率	212.0%	196.0%	—		達成率	—	75.0%	—		達成率	—	75.0%	—		

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標 コミュニティ勉強会等参加者数 R3n~R6n:3,000人/年
施策コード	主	6-1-1		
	再	—		
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている			
施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興			
事業群	知識創造型産業の振興			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	87,826	
	特定財源	38,755	
	一般財源	49,071	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	88,939	103,048
	特定財源	38,959	43,249
	一般財源	49,980	59,799

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	アジアビジネス促進・支援事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 大企業と異なり、国際ビジネスについて独自の展開や情報の取得が困難な地場中小企業の海外展開を支援するため。				
所管局	経済観光文化局	所管課	海外ビジネス支援課						
根拠法令	なし								
開始年度	平成21年度	行政計画	なし						

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地場中小企業	実施内容(事業手続)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○地場中小企業の海外販路拡大や、外国企業とのビジネス連携を支援するために、福岡アジアビジネス支援委員会や福岡フードビジネス協議会の活動、展示会への共同出展、情報提供のためのセミナーなどを実施。 ・商談件数: 846件 ○福岡アジアビジネス支援委員会において、福岡商工会議所等と連携し、下記事業を実施(共催事業等を含む)。 ・セミナー開催: 2回 ・商談会開催: 2回 ○福岡フードビジネス協議会において下記事業等を実施。 ・共同出展: 1回 (Food EXPO Kyushu2023)	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 国内市場が縮小する中、地場企業の海外販路拡大を支援するため、事業を継続する。 事業の実施方法や内容については、地場企業の海外展開ニーズや海外情勢等を踏まえ、適宜改善を図っていく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・成長著しいアジアへの販路拡大や外国企業との連携強化。 ・福岡フードビジネス協議会を通じて、福岡・九州の地場食品製造企業がまとまって輸出拡大を進め、福岡・九州の食の海外でのブランド化を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	<ul style="list-style-type: none"> パイヤーの招聘 展示会(国内・海外)への参加 海外ビジネスに関するセミナー開催 	<ul style="list-style-type: none"> 海外からのパイヤーを招聘し、地場企業との商談を行う。 地場企業がセミナー・展示会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡・九州の企業の海外との取引額が増える。 福岡市の貿易額(博多港・福岡空港)が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> 卸売・小売・物流など市内産業の活性化。 人・モノ・情報が集積する福岡のショーケース機能の強化。 福岡・九州の食の海外での認知度が高まる。 							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績		目標	
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	博多港・福岡空港における貿易額【億円】	年度	R4年度	R5年度	R6年度
商談件数	目標	700	760	800	R 年度	目標	41,000	54,000	55,000	R 年度	
	実績	817	846	—	—	実績	62,211	67,987	—	—	
	達成率	116.7%	111.3%	—	—	達成率	151.7%	125.9%	—	—	
セミナー参加人数	目標	300	300	300	R 年度	目標				R 年度	
	実績	191	97	—	—	実績				—	
	達成率	63.7%	32.3%	—	—	達成率				—	

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	博多港・福岡空港における貿易額 (令和6年度目標値: 5.5兆円)
施策コード	主	8-3-1			
	再	—			
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている				
施策	国際的なビジネス交流の促進				
事業群	国際ビジネスの振興				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	8,426	
	特定財源	1,500	
	一般財源	6,926	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	10,077	9,650
	特定財源	1,438	0
	一般財源	8,639	9,650

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	鴻臚館整備・活用事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	経済観光文化局	所管課	史跡整備活用課		本市の観光戦略の一環として、歴史的文化遺産を磨き上げ、観光・集客の核とするため。			
根拠法令	文化財保護法							
開始年度	令和元年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 史跡鴻臚館跡	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 平成30年度策定の「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」に基づき、鴻臚館跡展示館を活用し、鴻臚館の文化等を広く周知するために、市民向け講座を実施した。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」の計画事業の完了
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 鴻臚館跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。 また、使える身近な史跡として積極的な公開を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	・鴻臚館跡の整備の実施 ・鴻臚館の歴史的価値や史跡としての魅力の発信	・鴻臚館跡が整備され、歴史的景観が創出される。 ・多様な主体による活用事業が増加する。	・史跡鴻臚館跡の認知度の向上。 ・鴻臚館跡の歴史的価値が向上する。 ・来訪者の増加。	・市民の誇り、アイデンティティーの形成。 ・歴史観光の拠点となる。 ・郷土の歴史を知る場となる。							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標				
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
	多様な主体による活用事業数	目標	2	2	2	R10年度	目標	17,000	20,000	30,000	R10年度
		実績	1	1	2	5	実績	24,762	37,068	60,000	60,000
		達成率	50.0%	50.0%			達成率	145.7%	185.3%		
		目標				R 年度	目標				R 年度
		実績					実績				
		達成率					達成率				

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	①入込観光客数(日帰り) ②入込観光客数(宿泊)
施策コード	主	5-1-1			
	再	1-4-2	5-2-1		
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ				
事業群	福岡の歴史資源の観光活用				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	32,804	
	特定財源	0	
	一般財源	32,804	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	57,302	117,871
	特定財源	24,000	99,263
	一般財源	33,302	18,608

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	福岡城跡復元整備事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管局	経済観光文化局	所管課	史跡整備活用課		本市を特徴づける歴史的・文化資源を磨き上げ本市の観光・集客の核とするため	
根拠法令	文化財保護法					
開始年度	平成26年度	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 国史跡 福岡城跡	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 歴史資源としての磨き上げのため、「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づいた整備・活用を行った。史跡の整備では、令和4年度より福岡城潮見櫓建物復元工事を開始し、令和6年度末の竣工に向けて工事を進めている。同時に、福岡城跡の歴史的資源・観光としての魅力を発信するため、SNSを活用して整備状況やイベント開催等の情報発信を行った。また歴史系専門誌等へ広告を掲出し、福岡城の魅力と整備基金について紹介した。また、潮見櫓の工事を公開するイベントを実施して福岡城や潮見櫓に関心をもってもらうとともに、福岡城を身近に感じてもらうため、石垣の除草のボランティアイベントを実施した。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 「国史跡福岡城跡整備基本計画」の計画事業の完了
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡城跡を魅力ある歴史資源として磨き上げ、観光・集客の拠点とするとともに、歴史的価値を後世に確実に継承する。また、使える身近な史跡として積極的な公開・活用を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	平成26年度策定の国史跡福岡城跡整備基本計画にそった整備・活用事業を推進する。市民・観光客がわかりやすく楽しめる環境を整え、広く福岡城の魅力伝えていく。	福岡城が広く周知されるとともに、整備事業に対する理解・共感を得る。また、多くの市民・観光客が訪れ、活発な公開活用が行われる。	公開活用事業の推進とともに来訪者が増加し、史跡としての福岡城跡の認知度も向上する。また、福岡城整備基金の寄附額が増加する。	福岡城が都心部における観光・集客の拠点となる。また、市民の誇りとしてアイデンティティ形成の核となり、郷土の歴史を知る場となる。						
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標				
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
活動の指標	目標	130,000	130,000	R 年度	成果の指標(KPI)	目標	25,000	25,000	R 年度	
福岡城むかし探訪館及び三の丸スクエアの来館者数	実績	58,319	68,439	—		福岡城整備基金の寄附額(千円)	実績	16,385	7,902	25,000
達成率	44.9%	52.6%	—	—		達成率	65.5%	31.6%	—	25,000
目標	—	—	—	—		目標	—	—	—	R 年度
	実績	—	—	—		実績	—	—	—	
	達成率	—	—	—		達成率	—	—	—	

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			施策成果指標
施策コード	主	5-1-1		
	再	1-4-2	5-2-1	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている			
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ			
事業群	福岡の歴史資源の観光活用			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	204,121	
	特定財源	186,475	
	一般財源	17,646	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	46,215	225,293
	特定財源	27,717	200,387
	一般財源	18,498	24,906

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	福岡城・鴻臚館における観光振興事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管局	経済観光文化局	所管課	地域観光推進課		観光地としての環境整備が不十分のため、観光客ニーズの取りこぼしが発生している。	
根拠法令	なし					
開始年度	平成29年度	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市民及び市外からのインバウンドを含む観光客	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ・観光集客向上を図るとともに、観光客や市民の福岡城や福岡の歴史に対する興味・関心を高めるため、福岡城「幻の天守閣」ライトアップを実施した。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか ・シーズン毎に昼夜のイベントが民間事業者から提案・実施されている。 ・夜景スポットとして各種情報媒体に掲載され、市内外から多くの観光客が来訪している。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡城・鴻臚館エリアを昼夜問わず楽しむことができる新たな観光地として整備し、近郊を含めた観光客の誘客及びエリア内の回遊を促進する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ・天守台までのルート上に園路照明を設置 ・イベント用電源を整備 ・城内におけるライトアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡城の夜景スポットとしての認知度が増加し、エリアの魅力が伝わる。 ・エリア来訪者の満足度が向上し、口コミ等の拡散が促進される。 ・エリア内で観光客を対象にした民間事業者の参入が進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア内の回遊性が高まり、滞在時間が増加する。 ・福岡市内の夜景スポットとして夜間に訪れる観光客が増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市内への観光客、宿泊客の増加 ・福岡市内の地域経済の活性化 ・福岡市民のシビックプライドの醸成 																																																																																
	活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定</th> <th colspan="3">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">夜間イベントの提案数</td> <td>目標</td> <td>1</td> <td>3</td> <td rowspan="3">3</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>33.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績			目標		年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	夜間イベントの提案数	目標	1	3	3	R 年度	実績	1	1	—	達成率	100.0%	33.3%			目標				R 年度	実績					達成率					成果の指標(KPI)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定</th> <th colspan="3">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">夜間来訪者数(推計) 前年比増(%)</td> <td>目標</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td rowspan="3">100.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>195.0</td> <td>156.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>195.0%</td> <td>156.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績			目標		年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	夜間来訪者数(推計) 前年比増(%)	目標	100.0	100.0	100.0	R 年度	実績	195.0	156.0	—	達成率	195.0%	156.0%			目標				R 年度	実績					達成率			
指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績			目標																																																																																	
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																																
夜間イベントの提案数	目標	1	3	3	R 年度																																																																																
	実績	1	1		—																																																																																
	達成率	100.0%	33.3%																																																																																		
	目標				R 年度																																																																																
	実績																																																																																				
	達成率																																																																																				
指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績			目標																																																																																	
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																																
夜間来訪者数(推計) 前年比増(%)	目標	100.0	100.0	100.0	R 年度																																																																																
	実績	195.0	156.0		—																																																																																
	達成率	195.0%	156.0%																																																																																		
	目標				R 年度																																																																																
	実績																																																																																				
	達成率																																																																																				

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	入込観光客数 R6年度目標値: 2,000万人 外国人入国者数 R6年度目標値: 250万人
施策コード	主	5-1-1			
	再	—			
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ				
事業群	福岡の歴史資源の観光活用				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	51,738	
	特定財源	0	
		一般財源	51,738
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	33,513	97,758
	特定財源	0	
		一般財源	19,832

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	博多旧市街プロジェクト			背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 天神ビッグバン、ウォーターフロントNextと歴史が息づく博多部の対比を考えながら街づくりを推進してきた一方で、博多部の歴史・伝統・文化の魅力が十分に認知されておらず、改めて、自分たちが住んでいる地域に興味を持ち、誇りに思う気持ちを育てながら、観光資源としてのポテンシャルを高め、市民や観光客にしっかりと伝える必要があるため。
所管局	経済観光文化局	所管課	地域観光推進課	
根拠法令	なし			
開始年度	平成29年度	行政計画	なし	
【事業概要】				

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市民及び市外からのインバウンドを含む観光客
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 天神ビッグバンと対をなすプロジェクトとして、中世最大の貿易港湾都市であった博多部において、価値ある資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客に認知し楽しんでもらえる環境を整え、福岡観光の定番化を図る。

実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 福岡観光の定番化に向けた取り組みを地域や民間事業者と連携のうえ実施した。 <観光地としての価値を高める取組み> ・エリアの特性を活かした観光商品の登録制度である「博多旧市街セレクション」の運用及び官民連携によるプロモーションを実施
------------	--

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 歴史・伝統文化など、エリアの特性を活かしたコンテンツの充実が図られるとともに、モデルロードの美装化やまちなみ形成にあわせた店舗集積が進み、趣あるおもてなしの雰囲気醸成や賑わいが創出されることにより、主要な観光地として観光情報誌に掲載されるなど、福岡観光の定番として定着すること。 また、地域への集客や消費が促進されることにより得られる経済効果が地域の隅々まで波及するとともに、「我が町の誇り」として、シビックプライドが醸成されることで、エリア観光の自走化が図られる状況となれば、博多旧市街での取組をモデルとして他のエリアへの拡大を図っていく。
-------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)						②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)						③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)						④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)					
		地域、民間事業者等との連携をさらに強化しながら、博多旧市街の認知向上や福岡観光の定番化に向け、下記のことに取り組む。 <博多旧市街フェスティバルの拡充> ・期間延長や新規コンテンツの実施 ・SNS等を活用した情報発信強化(プランティング) ・交通機関等と連携した装飾や動画放映等のプロモーション ・博多旧市街セレクションの拡充 <沿道の賑わい創出> ・石畳風舗装等の道づくり ・灯籠の設置などによるまちなみの雰囲気醸成 ・音声ARを活用したまち歩きガイドコンテンツの拡充 <文化観光の振興> ・寺社保有の貴重な文化財等の観光活用検討						○地域、民間事業者等と連携・協力体制が強化される。 ○フェスの内容充実、期間延長により、新規・リピーターが増加し、認知向上に繋がる。 ○若年層やF1層の誘客により、SNSでの情報拡散や地域への経済波及効果に繋がる。 ○まちなみの雰囲気を醸成することで、旧市街の見える化に繋がる。 ○単なるまち歩きだけでなく、音声ARや多言語ガイドを組み合わせることで観光客の期待度と満足度の向上に繋がる。 ○「博多旧市街＝観光地」というイメージの定着。 ○観光地のイメージが定着することで、多くのメディア、雑誌等に博多旧市街が掲載され、新たな民間事業者の参入に繋がる。						○地元住民やエリア内で活動する民間企業のシビックプライドの形成やモチベーションの向上。 ○趣のあるまちなみや体験型コンテンツを見せることで、観光客がエリアへの関心を持つ。 ○まち歩きをさらに楽しめるコンテンツを用意することで、観光客の満足度が向上し、リピーターの確保に繋がる。 ○観光地として定着することで、新規事業者の参入に繋がり、エリア内の経済活性化に繋がる。						○地域、民間事業者等の主導で博多の特性を活かした観光施策が展開され、エリアの観光ポテンシャルが向上する。 ○福岡観光の定番地＝博多旧市街となる。 ○博多部の歴史、伝統文化が際立ち、福岡市の魅力がさらに高まる。 ○観光客の満足度向上により、滞在時間の延長やリピーターの確保に繋がり、地域の経済活性化が図られる。 ○入込観光客数の増加に繋がる。				
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定		実績		目標		成果の指標(KPI)		指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定		実績		目標											
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度								
		地元・民間・行政などの関係者と連携した新規観光施策実施数	目標	5	5	R 年度	「博多町家」ふるさと館来館者数	目標	161,000	161,000	R 年度	実績	89,727	132,399	161,000	—								
			実績	5	1	—		達成率	55.7%	82.2%	—		目標	412,000	412,000	R 年度								
			達成率	100.0%	20.0%	—		実績	531,278	427,858	412,000		達成率	129.0%	103.8%	—								

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		施策成果指標
施策コード	主	5-1-1	
分野別目標	再	—	入込観光客数 R6年度目標値: 2,000万人 外国人入国者数 R6年度目標値: 250万人
施策	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
事業群	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ		
事業群	福岡の歴史資源の観光活用		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	75,796	
	特定財源	0	
	一般財源	75,796	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	35,173	49,909
	特定財源	680	27,280
一般財源	34,493	22,629	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	歴史文化を活かした観光振興事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	経済観光文化局	所管課	地域観光推進課		福岡城・鴻臚館や国宝金印、元寇防塁など、貴重な歴史・文化資源を観光資源としてさらに磨き上げ、地域の魅力向上と集客促進を図るエリア観光の推進に取り組み、地域経済の活性化を図ることを目的として開始した。			
根拠法令	なし							
開始年度	平成29年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市民及び市外からのインバウンドを含む観光客									
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡市内の歴史資源や文化財、文化施設、商店街、自然など、地域における観光資源の魅力を発掘し、それらを面で繋いだ周遊コースの形成を図るなどの取組を行うことで、観光地としての魅力向上と集客促進を行い、地域経済の活性化を図っていくもの。	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館の管理運営を行い、観光客の受入環境を整備するとともに、体験型コンテンツやイベントの拠点、飲食物販施設として活用 ・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物体験や乗馬体験などの体験型コンテンツを実施 ・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむAR体験コンテンツ運用を実施 ・福岡城内及び周辺で活動する事業者との連絡会を開催 ・博物館の企画展に合わせた、エリア内民間事業者との特別プラン造成の実施 ・文化財を活用したイベントの実施 ・福岡城、鴻臚館のウェブサイトやSNSを活用した情報発信を実施						成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか ・福岡市内への観光客が増加し、福岡市内の地域経済の活性化が図られるとともに、福岡市民のシビックプライドの醸成が達成できている状態。

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)					
	<ul style="list-style-type: none"> エリア内の観光施設の管理運営 歴史資源のユニークベニューとしての活用 エリア内でのイベントの実施や招致 エリア内での体験型コンテンツの情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史資源及び周辺エリアの認知度が増加、エリアの魅力が伝わる。 エリア来訪者の満足度が向上し、口コミ等の拡散が促進される。 エリア内で観光客を対象にした民間事業者の参入が進む。 	<ul style="list-style-type: none"> エリア内の観光客の来訪が増加する。 エリア内の回遊性が高まり、滞在時間が増加する。 福岡市内の観光スポットとしてにぎわいが生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市内への観光客の増加 福岡市内の地域経済の活性化 福岡市民のシビックプライドの醸成 					
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標			
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度
民間事業者からの事業提案数	目標 13	実績 11	目標 13	R年度	福岡城むかし探訪館来館者数	目標 55,000	実績 24,085	目標 55,000	R年度
達成率	84.6%	46.2%	—	—	達成率	43.8%	57.0%	55,000	—
達成率	—	—	—	—	三の丸スクエア来館者数	目標 75,000	実績 34,234	目標 75,000	R年度
達成率	—	—	—	—	達成率	45.6%	66.1%	75,000	—

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			施策成果指標
施策コード	主	5-1-1		
	再	—		
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている			
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ			
事業群	福岡の歴史資源の観光活用			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)		
令和5年度決算額(見込額)		
	歳出	25,599
歳入	特定財源	224
	一般財源	25,375
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R4	R6
歳出	26,112	31,164
歳入	特定財源	282
	一般財源	25,830
	228	30,936

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	海辺を活かした観光振興事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か					
所管局	経済観光文化局	所管課	地域観光推進課		福岡市は都市的な魅力と豊かな自然環境が調和したコンパクトな都市として国内外から高い評価を得ている。その豊かな自然環境を育む農山漁村地域の特性・強みを活かし、観光振興と地域活性化を進めるもの。					
根拠法令	なし									
開始年度	令和2年度	行政計画	なし							

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市内外からの観光客(インバウンド含む)	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか Fukuoka East & West Coast プロジェクトとして、下記の内容を実施した。 ○志賀島エリア 市営渡船を活用した集客促進として、地元自治会や事業者とも連携イベントを開催した。 ○北崎・志賀島エリア ・観光客の受け入れ環境整備として、レンタサイクルの導入等に係る経費の支援を行った。 ・周遊促進に資する立ち寄りスポット整備について検討し、北崎エリアでは、施設の整備内容について事業者と協議を進め、市で行う造成工事に着手した。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか ・志賀島、北崎を目的に訪れる観光客が増加し、地域経済の活性化が図られるとともに、福岡市民のシビックプライドの醸成が達成されるよう、事業を継続していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 豊かな自然環境を有する農山漁村地域の志賀島・北崎エリアにおいて、海辺の観光周遊コースの形成を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	○観光案内板の設置などサイクルツーリズムの推進。 ○新たな観光コンテンツ造成による滞在型プランの拡充。 ○地元や事業者との連携による、エリアの特色を活かした立ち寄りスポットづくりの検討。	○市内外からの観光客が、アクセス性を含めエリアの魅力を確認し、SNS等での発信が増加する。 ○市内外からの観光客による、エリアでの消費が増加する。 ○立ち寄りスポットづくりの方向性(場所・機能等)について、エリア内の地域、事業者との合意形成が図れ、立ち寄りスポットが造成。	○志賀島・北崎エリアへの市内外からの観光客(インバウンド含む)が増加している。 ○観光客の志賀島・北崎エリアでの滞在時間が長くなっている。 ○地元や事業者が抱える課題(交通混雑等)が解消されるとともに、観光客の満足度や回遊性が高まり、新たに訪れられる方やリピーターの確保に繋がる。	○それぞれのエリアの特色を活かしたブランディングが確立し、志賀島・北崎エリアへの来訪を目的として、福岡を訪れる人が増加する。 ○国内外からの旅行者が増加し、地域の賑わいが増す。						
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定					
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度
市観光情報サイト「よかなび」PV数	目標	66,000	72,600	R 年度		エリア来訪者推計人数(1~12月)	目標	209,239	485,919	R 年度
	実績	76,514	74,944	79,860	—		実績	441,745	476,994	524,693
	達成率	115.9%	103.2%				達成率	211.1%	98.2%	—
	目標				R 年度		目標			R 年度
	実績						実績			
	達成率						達成率			

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			施策成果指標
施策コード	主	5-1-2		
	再	—		
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている			
施策	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ			
事業群	魅力の磨き上げ			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	54,443	
	特定財源	19,000	
	一般財源	35,443	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	36,410	448,768
	特定財源	0	3,741
	一般財源	36,410	445,027

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	MICE誘致推進事業、MICEワンストップ体制の運営、MICE誘致強化事業（R5：ポストコロナMICE誘致強化事業）、MICE支援事業（R5：ポストコロナMICE支援事業）			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	経済観光文化局	所管課	MICE推進課		MICEは都市の魅力を発信し、裾野の広い関連産業の振興につながるとともに経済波及効果が高く、文化・スポーツ・芸術等の発展にも寄与することから、長期的・政策的に振興を図ることとして開始。			
根拠法令	なし							
開始年度	平成13年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか MICEの主催者・参加者	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・セールス活動や誘致活動の実施 ・海外の展示会・見本市等へ出展 ・市と(公財)福岡観光コンベンションビューロー、(一財)福岡コンベンションセンターの実務者レベルで会議を開催し、MICEの動向や誘致状況等について情報共有を実施 ・MICEショーケース・FAMトリップ(キーパーソンを招聘し、MICE施設やユニークベニューの視察、文化体験等を実施) ・ミーティング・インセンティブツアーへの開催支援、見本市等への開催支援 ・Meeting Place Fukuokaの体制を強化	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか MICE開催件数増加による市への経済波及効果を増やすため、事業を継続していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか MICEの主催者が福岡市の魅力を知り、福岡を開催地として選択する状態。 また、福岡で開催されたMICE主催者・参加者が福岡の魅力に触れ、個人旅行で再来福したり、広く福岡の魅力を発信する状態。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																						
	・MICE誘致のためのリサーチ、マーケティング、セールス活動 ・MICE主催者・参加者への支援や歓迎演出	・MICE誘致対象の発掘 ・MICE開催地としての福岡の魅力向上	・MICE開催地として福岡市を選択する主催者の増加 ・福岡で開催されたMICE主催者・参加者が福岡の魅力を感じる	・福岡市のMICE都市としての認知度向上 ・MICE開催件数増加による市への経済波及効果上昇 ・MICE主催者・参加者への再来福による経済波及効果上昇																																						
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)																																						
	※②結果アウトプットに対応した指標を設定	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>—</td> <td>維持</td> <td>増加</td> <td>R7年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>21</td> <td>32</td> <td>増加</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	—	維持	増加	R7年度	実績	21	32	増加	増加	達成率	—	達成			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>増加</td> <td>増加</td> <td>増加</td> <td>R7年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>33</td> <td>集計中</td> <td>増加</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>達成</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	増加	増加	増加	R7年度	実績	33	集計中	増加	増加	達成率	達成	—	
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																						
目標	—	維持	増加	R7年度																																						
実績	21	32	増加	増加																																						
達成率	—	達成																																								
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																						
目標	増加	増加	増加	R7年度																																						
実績	33	集計中	増加	増加																																						
達成率	達成	—																																								

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		施策成果指標	
施策コード	主	5-4-2		国際コンベンション開催件数 (R6年度目標値:313件)
	再	—		国内コンベンション誘致件数 (R6年度目標値:160件)
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている			
施策	交流がビジネスを生むMICE拠点の形成			
事業群	MICE誘致の推進			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出		109,864
	特定財源		24,103
	一般財源		85,761
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度		R6
	歳出		R4
	特定財源	74,831	10,000
	一般財源	68,461	210,085

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	クルーズ船観光客の受入調整			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管局	経済観光文化局	所管課	クルーズ課		寄港地観光の訪問先が固定化する傾向にあり、訪問先周辺における交通混雑やクルーズ船寄港による経済効果が見えにくい要因となっていたため、訪問先・訪問時間の分散化やツアーの多様化・上質化に取り組む必要性が増していた。
根拠法令	なし				
開始年度	平成28年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか クルーズ船観光客、観光バス	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ○クルーズNAVIシステム(寄港地観光手配予約システム)を活用した観光バスの訪問先・訪問時間の分散化 ○ランドオペレーターへの訪問先・訪問時間分散化や多様な寄港地観光の働きかけ	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか クルーズ船観光客や観光バスの集中訪問がなく、市が介入しなくても市民生活と調和した寄港地観光が実現する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか クルーズ船観光客が一部の訪問先に集中することなく、さまざまな観光地等を訪れて満足度が向上する。観光バスによる交通混雑を抑制し、市民生活と調和した観光振興を推進する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・クルーズ船観光バスの訪問先・訪問時間の分散化のためのクルーズNAVIシステム適切な運用 ・寄港地観光の多様化・上質化に向けた寄港地観光ツアーの造成やランドオペレーターへの働きかけ	・クルーズ船観光バスの寄港地観光状況を把握し、必要に応じてランドオペレーターへ働きかけ、クルーズ船観光バスの訪問先・訪問時間が分散する。	・クルーズ船観光客や観光バスの集中訪問がなく、市民生活と調和した寄港地観光が実施されるクルーズ船が寄港する。	・クルーズ船観光客や観光バスの集中訪問がなく、市民生活と調和した寄港地を観光が実現する。	
	※②結果アウトプットに対応した指標を設定	※③中間アウトカムに対応した指標を設定			
活動の指標	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
	クルーズNAVIシステム等により寄港地観光状況を把握した回数	—	75	200	R 年度
	目標	—	75	—	—
	実績	1	75	160	R 年度
	達成率	—	100.0%	39.4%	—
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		施策成果指標
施策コード	主	5-6-2	
	再	—	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
事業群	クルーズ客船誘致の取組み		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	28,135	
	特定財源	0	
	一般財源	28,135	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	893	11,733
	特定財源	0	0
一般財源	893	11,733	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	クルーズ船誘致事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管局	経済観光文化局	所管課	クルーズ課		海外船社によるアジアクルーズ市場開拓が進むにつれて、中国・韓国と近接する博多港のクルーズ船寄港地としての需要が増大。クルーズ船寄港による経済効果が大きいことから、博多港の強みを活かした積極的な誘致活動が必要となっていた。
根拠法令	なし				
開始年度	平成21年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 船社・旅行代理店等	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ○多様なクルーズ船の誘致 ・国内外の船社・旅行代理店訪問 ・海外コンベンション参加による博多港PR ○博多港発着クルーズの振興 ・船社、旅行代理店等と連携し、クルーズ人口のすそ野を広げるための市民クルーズの実施	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 北東アジアのクルーズ市場だけでなく欧米等多様な地域からのクルーズ船の寄港が増え、クルーズ客が市内観光地を周遊し、市民生活と調和した寄港地観光の定着を目標とする。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか クルーズ港としての博多港の認知度・イメージを向上し、北東アジアのクルーズ市場における博多港の地位を確立し、多様な地域のクルーズ船社が運航先として博多港を選び、また、付随する寄港地観光について旅行代理店等が積極的に商品造成を行い、クルーズ市場が活性化する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	・船社、旅行代理店等訪問による誘致活動 ・海外コンベンション等での博多港PR ・市民クルーズ、市民船内見学会等の実施 ・上質な寄港地推進のための観光資源掘り起こし	・船社、代理店等の寄港地選定権限のあるキーパーソンに、上質な寄港地観光の提案を行い、クルーズ港としての博多港が認知される。 ・博多港へのクルーズ船寄港に対し、市民の認知度や理解度が向上する	・博多港がクルーズ船寄港地に選定される。 ・博多港のクルーズ港としての認知度が向上する。 ・博多港発着クルーズの市場が拡大する。 ・市民生活と調和した観光が推進される。	・クルーズ船観光客員による市内への経済効果が増大し、上質な寄港地観光が推進され、寄港地観光と市民生活が調和している。						
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標			
活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
海外コンベンション参加回数	目標	1	3	3	R 年度	目標	—	8	8	R 年度
	実績	1	3	3	—	実績	0	8	8	—
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	—	達成率	—	100.0%	100.0%	—
市民クルーズ実施回数	目標	1	4	3	R 年度	目標	2	20	20	R 年度
	実績	1	4	3	—	実績	2	20	20	—
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	—	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	—

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点		施策成果指標	外航クルーズ客船の寄港回数(250回、暦年)	
施策コード	主	5-6-2			
	再	—			
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進				
事業群	クルーズ客船誘致の取組み				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)					
歳入	歳出	3,681			
	特定財源	0			
		一般財源	3,681		
前年度決算額・翌年度予算額					
歳入	年度	R4	R6		
	歳出	4,758	5,655		
	特定財源	0			
		一般財源	4,758	5,655	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	広域連携誘客事業 (R5:九州広域連携誘客事業)		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
所管局	経済観光文化局	所管課		観光マーケティング課		
根拠法令	福岡市観光振興条例			九州の自治体では、国内外で認知度が高く九州のゲートウェイ機能を担う本市と連携し、本市発着の広域周遊観光のなかで自らの都市へ誘客したいという強いニーズがある。こうしたなかで、九州のゲートウェイ都市である本市が中心となって、各自治体への誘客を促進することで、観光需要の早期回復に貢献していく。		
開始年度	R3年度	行政計画				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・福岡空港に直行便を就航している多様な国・地域(東アジア・東南アジア)の他、欧米豪からの旅行者 ・国内居住者(関東・関西圏)	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・東アジアや東南アジアに対し、SNSや現地訪日旅行サイトを等を活用したWebによる情報発信をはじめ、福岡市を含む九州を周遊するための旅行商品の造成等を実施。 ・欧米豪等に対し、九州の各自治体等と連携しながら、広告配信などwebを活用した情報発信を実施。 ・台湾、タイで開催されるアジア最大規模の旅行博に出展。 ・国内最大の旅行博である「ツーリズムEXPO」に出展。 ・令和6年4～6月に開催される「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」に向けて、大分の自治体と連携した周遊プロモーションを実施。 ・西日本・九州の自治体と連携し、新たに「西のゴールデンルート」の取組みを開始。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 観光に意欲的な九州の自治体等とのネットワークを深めながら、各自治体が求めるターゲットごとに、魅力的な観光コンテンツを連携させ、歴史・自然・食など、テーマを設定した九州周遊モデルコースを継続してプロモーションを行う。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 福岡や九州の認知度を高めるとともに、福岡・九州を旅行先に選んでいただける状態にする。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・訪日メディアやインフルエンサーの招請・情報発信 ・現地旅行会社に対するセールスコールの実施 ・現地市場のニーズ把握 ・九州観光特設サイトの改修、広告配信の実施。	福岡市・九州等の観光の魅力を発信する	福岡市・九州等の魅力が周知され、来訪意欲が高まる	市内や九州等に訪れる観光客や観光消費額の増加につながる	
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
活動の指標	プロモーション件数	5	5	5	R年度
	目標	7	8	—	—
	実績	140.0%	160.0%	—	—
	達成率				
	目標				R年度
	実績				
	達成率				
	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標	R7年	最終年度
	年度	R4年	R5年	R6年	最終年度
	入込観光客数	23,000,000	23,000,000	23,000,000	23,000,000
	目標	18,600,000	未公表	—	—
	実績	80.9%	—	—	—
	達成率				
	目標	6,000億円	6,000億円	6,000億円	R7年度
	観光消費額	4,219億円	未公表	6,000億円	6,000億円
	実績	70.3%	—	—	—
	達成率				

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		施策成果指標	
施策コード	主	5-6-1		
	再	—		
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている			
施策	国内外への戦略的なプロモーションの推進			
事業群	シティプロモーションの推進			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	34,582	
	特定財源	0	
	一般財源	34,582	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	12,172	88,570
	特定財源	0	0
	一般財源	12,172	88,570

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	グリーンテックビジネス海外展開事業 (R5:国際貢献・ビジネス展開事業)		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管局	経済観光文化局	所管課		国際経済企画課	アジアの諸都市は、急激な経済成長に伴う都市問題に直面している。一方、福岡市は、「住み良いまちづくり」のノウハウを持っているため、都市問題解決に寄与することにより、国際貢献・協力を図ることとしたもの。更に国際貢献・協力の果実として、国際貢献・協力を通じて構築できた現地との関係を活かした地場企業のビジネス機会創出に取り組むこととしたもの。
根拠法令	なし				
開始年度	平成24年度	行政計画		なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地場企業 海外の諸都市	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ○「国際ビジネス展開プラットフォーム(PF)」内外の地場企業のヒアリングを実施し、支援方策を検討 ○国・JICA・世界銀行など国際協力に係る関係機関等との協議・連携強化 ○PF会員企業のJICA中小企業支援事業等採択支援 ○PF会員企業向けに情報提供セミナーをJICA九州と共催 ○ベトナムで開催の水・環境分野の国際展示会にPF会員企業と共同出展 ○ベトナムにおいてPF会員企業と海外企業のビジネスマッチング開催	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか ・地場企業が海外でのビジネス経験を蓄積し、本市支援が無くとも国際展示会への参加や現地企業との商談を行うなど、自発的・恒常的に新たな市場開拓に取り組めるようになる。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 市が実施する国際貢献・国際協力を通じて構築できた現地政府機関等との良好な関係を背景に、地場企業が現地企業とのビジネスの獲得や、現地進出などの海外展開を実現して事業規模を拡大すること。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)				③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)				④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・PFの運営(セミナー開催、メルマガ配信等) ・国際展示会へのPF企業との共同出展 ・PF企業と現地企業のビジネスマッチング ・PF企業によるJICA事業等外部資金の獲得支援 		<ul style="list-style-type: none"> ・PF企業の海外での活動経験の蓄積 ・PF企業の海外展開に対する意識、人員、体制の変化 ・外部資金・支援を活用したPF企業の海外活動の進展 ・PF企業による海外ビジネスの受注 				<ul style="list-style-type: none"> ・PF企業の海外展開(継続的なビジネス受注、拠点設立など) ・ODA等の案件形成 ・海外展開に取り組むPF企業の増加 				<ul style="list-style-type: none"> ・海外ビジネス展開の成功により成長した地場企業による本市経済への貢献(雇用増、税収増) ・アジアにおける福岡市の知名度・ステイタスが向上し、存在感が高まる。 			
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	年度	実績		目標		
活動の指標	福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム会員企業との連携活動件数(単年)	目標	5	5	5	R 年度	地元企業の海外ビジネス展開件数(累計)	目標	6	6	8	R 年度		
		実績	2	5	5	—		実績	5	6	8	—		
		達成率	40.0%	100.0%	100.0%	—		達成率	83.3%	100.0%	100.0%	—		
		目標				R 年度		目標				R 年度		
		実績						実績						
		達成率						達成率						

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点		施策成果指標	なし
施策コード	主	8-6-1		
	再	—		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進			
事業群	ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	7,501	
	特定財源	1,465	
	一般財源	6,036	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	3,388	13,349
	特定財源	0	1,500
	一般財源	3,388	11,849

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	国際金融機能誘致推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 令和2年9月、福岡への国際金融機能の誘致に向けて、産学官が一体となった推進組織「TEAM FUKUOKA」が設立(市長は副会長に選任)され、「資産運用業」「フィンテック」「BCP対応業務」を重点的に誘致することとしており、TEAM FUKUOKAの一員として誘致活動に取り組む。			
所管局	経済観光文化局	所管課	国際金融機能誘致担当					
根拠法令	なし							
開始年度	令和3年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ①外資系金融機関等 ②投資対象となる地場企業	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ①TEAM FUKUOKAのホームページによる情報発信 ②国際金融に特化したワンストップサポート窓口「Global Finance Centre」を運営 ③地元企業と海外投資家のマッチングを目的としたピッチイベント・個別商談を開催	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 誘致活動不要で、外資系金融機関等が本市への拠点を設立し、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ①福岡への拠点設立に関する相談に対応できている。 ②福岡の経済を牽引する企業へと成長している。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・ワンストップ相談窓口の設置 ・地場企業に対する成長支援事業の実施	・外資系金融機関等が福岡への拠点設立を検討する ・地元企業が海外投資家からの資金調達や海外企業との協業など海外を見据えた経営サポートを受ける	・福岡へ拠点を設立 ・参加企業が福岡の経済を牽引する企業へと成長	・雇用者数増、税収増 ・国際金融都市としての認知度の向上	
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度
ワンストップ窓口における相談件数	目標	160	170	—	R 年度
	実績	94	34	—	—
	達成率	58.8%	20.0%	—	—
外資系金融機関等への訪問・面談回数	目標	—	—	300回/年	R 年度
	実績	—	—	—	—
	達成率	—	—	—	—
	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
成長分野・本社機能の進出企業数(国際金融関連企業は内数を含む)	目標	50	50	55	R 年度
	実績	65	61	—	—
	達成率	130.0%	122.0%	—	—
進出した企業による雇用者数(国際金融関連企業は内数を含む)	目標	3,000	3,000	3,000	R 年度
	実績	2,157	651	—	—
	達成率	71.9%	21.7%	—	—

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	・国際金融機能の更なる誘致に向けて、引き続きTEAM FUKUOKAの一員として誘致活動に取り組む ・外資系金融機関が進出しやすい環境整備に務めるとともに、魅力的な投資対象となる企業の育成に取り組む
施策コード	主	6-2-1			
	再	—			
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている				
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進				
事業群	企業や本社機能の立地促進				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
	歳出	10,915	
歳入	特定財源	3,388	
	一般財源	7,527	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R4	R6
	歳出	8,870	9,948
歳入	特定財源	1,433	0
	一般財源	7,437	9,948

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	外資系金融機関等の誘致推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 令和2年9月、福岡への国際金融機能の誘致に向けて、産学官が一体となった推進組織「TEAM FUKUOKA」が設立(市長は副会長に選任)され、「資産運用業」「フィンテック」「BCP対応業務」を重点的に誘致することとしており、TEAM FUKUOKAの一員として誘致活動等の取り組みを開始した。			
所管局	経済観光文化局	所管課	企業誘致課					
根拠法令	なし							
開始年度	令和3年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 外資系金融機関等	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 福岡市を広くPRするため、ウェビナーや海外でプロモーション等を行うとともに、アンバサダーのネットワークを活用した誘致活動を実施	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 誘致活動不要で、外資系金融機関等が本市へ拠点を設立し、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 国際金融都市としての福岡市の優位性が認知され、外資系金融機関等が本市へ拠点を設立し、定着させる。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)					
	・外資系金融機関等を対象としたプロモーション ・アンバサダーのネットワークを活用した誘致活動	・国際金融都市としての福岡市の優位性が認知される ・外資系金融機関等が福岡への拠点設立を検討する	・福岡へ拠点を設立	・雇用者増、税収増					
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定				
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度
活動の指標	プロモーション参加企業数	10	7	7	R 年度	50	55	55	R 年度
	実績	17	19	—	—	65	62	—	—
	達成率	170.0%	271.4%	—	—	130.0%	112.7%	—	—
	海外で実施する企業誘致プロモーションの参加人数	—	100.0	100	R 年度	3,000	3,000	3,000	R 年度
	実績	—	161.0	—	—	2,157	651	3,000	—
	達成率	—	161.0%	—	—	71.9%	21.7%	—	—

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	○成長分野・本社機能の進出企業数(55社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
施策コード	主	6-2-1			
	再	—	—		
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている				
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進				
事業群	企業や本社機能の立地促進				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
	歳出	26,411	
歳入	特定財源	4,790	
	一般財源	21,621	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R4	R6
	歳出	9,900	36,360
歳入	特定財源	2,847	0
	一般財源	7,053	36,360

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	重点分野の企業誘致推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管局	経済観光文化局	所管課	企業誘致課		地域経済を活性化させ、本市の国際競争力を高めるため、本社機能や外資系企業、クリエイティブ産業などの、成長性が高い分野の企業誘致を推進するとともに、クリエイティブ人材の市内企業への就職・移住支援等を開始した。	
根拠法令	福岡市企業立地促進条例及び同条例施行規則					
開始年度	平成16年度	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 国内外の企業等	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか 国外企業に対しては、外国企業・投資誘致センター運営、ジェトロ等関連団体との連携を通じ、外国企業等への情報発信や連絡・情報提供等を実施し、本市への進出をサポートした。また、在京の大使館等を訪問し、福岡市のビジネス環境や支援策の説明、情報交換を実施し、ネットワークづくりを行った。 国内企業に対しては、コロナ禍において、企業の「働き方」「オフィスの在り方」への価値観が多様化する中、本市への企業立地を促進するにあたり、「人材」「オフィス」「ビジネス環境」等、立地に必要な情報や本市の魅力・特性等を総合的かつ効果的に発信した。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 誘致活動不要で、本市への本社や支社等の拠点設置が進み、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 本市への本社や支社等の拠点設置を推進し、定着させる。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																													
		・企業訪問・企業面談により、立地支援策等の情報提供及び本市のビジネス環境のPR等の企業誘致活動を実施する。	・企業等が本市の立地支援策やビジネス環境に関する情報を入手し、市内立地を検討する。	・本市へ本社、支社等の拠点を設置する。	・本市全体の税収増。 ・本市全体の雇用増。																																																																												
	活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 15%;">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <td>※②結果アウトプットに対応した指標を設定</td> <td>年度</td> <td>R4年度</td> <td>R5年度</td> <td>R6年度</td> <td>最終年度</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">クリエイティブ企業への企業訪問・面談回数</td> <td>目標</td> <td>300</td> <td>300</td> <td rowspan="3">300</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>773</td> <td>602</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>257.7%</td> <td>200.7%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		※②結果アウトプットに対応した指標を設定	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	クリエイティブ企業への企業訪問・面談回数	目標	300	300	300	R 年度	実績	773	602	—	達成率	257.7%	200.7%	—	目標				R 年度	実績					達成率					成果の指標(KPI)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 15%;">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <td>※③中間アウトカムに対応した指標を設定</td> <td>年度</td> <td>R4年度</td> <td>R5年度</td> <td>R6年度</td> <td>最終年度</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成長分野・本社機能の進出企業数</td> <td>目標</td> <td>50</td> <td>55</td> <td rowspan="3">55</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>65</td> <td>62</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>130.0%</td> <td>112.7%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>3,000</td> <td>3,000</td> <td rowspan="3">3,000</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2,157</td> <td>651</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>71.9%</td> <td>21.7%</td> <td>—</td> </tr> </table>	指標の内容	実績		目標		※③中間アウトカムに対応した指標を設定	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	成長分野・本社機能の進出企業数	目標	50	55	55	R 年度	実績	65	62	—	達成率	130.0%	112.7%	—	目標	3,000	3,000	3,000	R 年度	実績	2,157	651	—	達成率	71.9%	21.7%
指標の内容	実績		目標																																																																														
※②結果アウトプットに対応した指標を設定	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																												
クリエイティブ企業への企業訪問・面談回数	目標	300	300	300	R 年度																																																																												
	実績	773	602		—																																																																												
	達成率	257.7%	200.7%		—																																																																												
目標				R 年度																																																																													
実績																																																																																	
達成率																																																																																	
指標の内容	実績		目標																																																																														
※③中間アウトカムに対応した指標を設定	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																																																												
成長分野・本社機能の進出企業数	目標	50	55	55	R 年度																																																																												
	実績	65	62		—																																																																												
	達成率	130.0%	112.7%		—																																																																												
目標	3,000	3,000	3,000	R 年度																																																																													
実績	2,157	651		—																																																																													
達成率	71.9%	21.7%		—																																																																													

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	○成長分野・本社機能の進出企業数(55社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
施策コード	主	6-2-1			
	再	—			
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている				
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進				
事業群	企業や本社機能の立地促進				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	11,091	
	特定財源	0	
		一般財源	11,091
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	11,380	13,271
	特定財源	0	
一般財源		11,380	13,271

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	企業立地促進制度の実施			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 立地交付金等の企業立地を促進するための施策を実施することにより、本市への産業を集積し、雇用機会の創出、事業機会の増大及び税源の涵養を図ることにより、本市経済活動の活力の維持及び豊かな市民生活の実現を目指して本制度を開始した。			
所管局	経済観光文化局	所管課	企業誘致課					
根拠法令	福岡市企業立地促進条例及び同条例施行規則							
開始年度	平成14年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 国内外の企業等	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか 企業立地を促進するための施策として、本社機能・大規模開発拠点向けに改正した立地交付金を適用することにより、本市へ新たに立地する企業の初期投資を軽減し国内外企業の立地促進を図るとともに、市内既存事業所においても、特定の業種・分野に限り立地交付金を適用し転出防止を図った。 ○立地交付金交付件数: 33件	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 誘致活動不要で、本市への本社や支社等の拠点設置が進み、定着する状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 本市への本社や支社等の拠点設置を推進し、定着させる。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	・企業訪問・企業面談により、立地支援策等の情報提供及び本市のビジネス環境のPR等の企業誘致活動を実施する。	・企業等が本市の立地支援策やビジネス環境に関する情報を入手し、市内立地を検討する。	・本市へ本社、支社等の拠点を設置する。	・本市全体の税収増。 ・本市全体の雇用増。						
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績	目標				
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
活動の指標	企業訪問・面談回数	目標	800	800	R 年度	成長分野・本社機能の進出企業数	目標	50	55	R 年度
	実績	1,556	1,637	800	—		実績	65	62	55
	達成率	194.5%	204.6%				達成率	130.0%	112.7%	—
	目標				R 年度	進出した企業による雇用者数	目標	3,000	3,000	R 年度
	実績						実績	2,157	651	3,000
	達成率						達成率	71.9%	21.7%	—

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	○成長分野・本社機能の進出企業数(55社/年) ○進出した企業による雇用者数(3,000人/年)
施策コード	主	6-2-1			
	再	—			
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている				
施策	成長分野の企業や本社機能の立地の促進				
事業群	企業や本社機能の立地促進				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
	歳出	2,457,771	
歳入	特定財源	5,840	
	一般財源	2,451,931	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R4	R6
	歳出	2,665,843	3,191,694
歳入	特定財源	2,897	697,926
	一般財源	2,662,946	2,493,768

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	クリエイティブ関連産業の振興、eスポーツビジネス創出事業、音楽都市振興事業（商工業振興費）	所管局	経済観光文化局	所管課	コンテンツ振興課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 本市には、都市規模を上回るクリエイティブ関連産業の集積があり、今後も本市の成長エンジンとして地域経済を牽引していくことが期待される中、これらの関連産業について、ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン等業種に応じた産業振興が必要となるため。
根拠法令	なし						
開始年度	平成24年度	行政計画	なし				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・市内クリエイティブ関連企業 （ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン、eスポーツ） ・個人のクリエイター ・クリエイティブ関連分野を専攻している学生
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・企業、個人クリエイターの販路が拡大、収益増加している。 ・クリエイティブ関連企業への就職希望者が就労できている。

実施内容（事業手段）	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○ゲーム ゲーム産業分野では、産学官による福岡ゲーム産業振興機構を通じ、ゲーム業界の人材育成・確保に取り組んだ。 ○映像 映像分野では、地場映像産業の活性化に向け、民間企業等との連携を実施した。 ○ファッション ファッション産業分野では、地場ファッション産業の活性化に向け、民間企業等との連携を実施した。 ○音楽 音楽分野では、福岡音楽都市協議会や福岡ミュージックマンス主催者会などの団体と連携して、音楽都市としてのブランディングを図るとともに、関連産業の振興を図った。 ○デザイン デザイン産業分野では、福岡県産業デザイン協議会に参画し、デザイン関連産業の振興を図った。 ○eスポーツ eスポーツ分野では、福岡eスポーツ協会に参画し、eスポーツを通じた新たなビジネスの創出・拡大を目指し、ビジネスマッチング及びeスポーツの認知度向上を図った。
-------------------	---

成果（見直し判断基準）	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 事業目的に向けた取組みが行政主導ではなく、民間主体で自発的に行われるような環境が醸成され、かつ行政で解決すべき課題がなくなった際に事業を終了するもの。
--------------------	---

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	1.人材育成事業（インターンシップ、コンテスト、セミナー等） 2.販路拡大事業（展示商談会出展支援等） 3.イベントの開催 4.情報発信事業	・就労希望者が地場企業の必要としているスキルが身に着く。 ・地場企業が国内外のバイヤーと商談できる。 ・イベント等でのクリエイターの発表の場ができる。 ・国内外での事業認知度が上がる。	・人材確保における企業と就労希望者とのミスマッチングが少なくなる。 ・地場企業が販路拡大・収益増加。 ・情報発信により福岡ブランドが定着する。	本市にクリエイティブ関連企業が多数集積・ハブ化し、地元学生の就職の受け皿として十分な状態となるとともに、同産業が地域経済を牽引している状態。							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標（KPI）							
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
インターンシップ開催回数	目標	1	1	2	R 年度	市内ゲーム関連企業従業員数(人)	目標	2,500	2,500	2,800	R 年度
	実績	1	2	—	—		実績	2,326	2,622	—	—
	達成率	100.0%	200.0%	—	—		達成率	93.0%	104.9%	—	—
	目標				R 年度		目標				R 年度
	実績					実績					
	達成率					達成率					

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点	施策成果指標	クリエイティブ関連事業所数 (2022年目標値・2,900事業所)	
施策コード	主			7-3-1
	再			—
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している			
施策	個人の才能が成長を生む創造産業の振興			
事業群	クリエイティブ関連産業の振興			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出		33,549
	特定財源		17,275
		一般財源	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	28,280	32,304
	特定財源	10,666	15,691
	一般財源	17,614	16,613

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	クリエイティブ・エンターテインメント都市づくり推進事業、 クリエイティブビジネスマッチング促進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管局	経済観光文化局	所管課	コンテンツ振興課		市内のクリエイティブ関連企業からは、分野を超えた交流の場やイベント等を通じた情報発信、スタートアップ支援のニーズが高い。クリエイティブ・エンターテインメント分野は、福岡市の強みを活かせる分野であり、時代を担う産業分野として積極的に振興を図る。
根拠法令	なし				
開始年度	平成24年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・市内クリエイティブ関連企業 (ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン) ・個人のクリエイター ・クリエイティブ関連分野を専攻している学生	実施内容 (事業手段)	令和5年度、前年度の改善策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○アジアンパーティの開催 福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、アジアとクリエイティブをコンセプトとした民間企業・団体等の各種事業と連携を図り、「アジアンパーティ」として9月～10月に集中開催。 ○クリエイティブ福岡推進協議会の運営 異業種交流を目的としたセミナー・交流会、ホームページ・SNS等を活用した情報発信事業等を実施。 ○クリエイティブ・フェスタの開催(10月) 国内外に広くPRする広告塔的イベントとして、「The Creators」を開催。 80,000人を集客した。	成果 (見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 事業目的に向けた取組みが行政主導ではなく、民間主体で自発的に行われるような環境が醸成され、かつ行政で解決すべき課題がなくなった際に事業を終了するもの。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・異業種の枠を超え、企業、クリエイターが活発に交流している。 ・またその交流から、新たなビジネス機会、価値が生まれている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	○アジアンパーティの開催 ○クリエイティブ福岡推進協議会(クリエイティブ・ラボ・フクオカ)の事業実施 ・セミナー・交流会等の開催 ・情報発信事業(ホームページ等の運営) ・クリエイティブフェスタの開催	・イベント等でクリエイターの発表の場を提供する。 ・イベント等で市民の方々からクリエイティブ関連分野の最新技術に触れる機会を提供する。 ・企業、クリエイターとの情報交換やネットワーク構築の場を提供する。 ・情報発信を通じて事業の認知度が向上、事業の参加者が増加する。	・企業、クリエイターにおいて異業種間も含めた交流が活発化する。 ・アジアンパーティの時期に国内外のクリエイターが福岡に集まる。	本市にクリエイティブ関連企業が多数集積・ハブ化し、就職の受け皿として十分な状態となるとともに、同産業が地域経済を牽引している状態。イベント等を通じた国内・海外への情報発信を通して「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」のブランディングができています。		
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	実績	目標
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
	セミナー・交流会の開催数 目標 5 実績 7 達成率 140.0%	5 6 6 100.0%	5 —	R年度	R年度	
	目標 実績 達成率			R年度	R年度	

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		クリエイティブ関連事業所数 (2022年目標値: 2,900事業所)
施策コード	主	7-3-2	施策成果指標
	再	—	
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している		
施策	個人の才能が成長を生む創造産業の振興		
事業群	エンターテインメント都市づくり		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	87,523	
	特定財源	0	
	一般財源	87,523	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	87,010	87,643
	特定財源	0	0
一般財源	87,010	87,643	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	水素関連産業の振興、福岡市水素ステーションの運営 FCモビリティの導入促進、まちづくりへの水素実装 (R5:水素リーダー都市プロジェクト)			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成26年12月の燃料電池自動車の市販開始を契機に、国内外において水素エネルギー・燃料電池の市場拡大と関連分野を含めた新たな市場化が見込まれることから、地場企業を中心に水素エネルギーの産業化を進めることとしたため。			
	所管局	経済観光文化局	所管課		水素推進担当			
	根拠法令	なし						
	開始年度	平成26年度	行政計画		なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地場企業を中心とした水素関連企業	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・水素ステーションを官民連携で運営。 ・新たなFCモビリティとして、給食配送車3台とごみ収集車1台の導入、救急車1台の実証開始。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおいて、水素の供給や利活用について検討を進め、水素供給パイプラインの敷設工事を発注。 ・広く市民が参加するイベント等で「Moving e」を活用し、普及啓発を実施。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 地場企業を中心とした水素関連企業のビジネス拡大や大学との共同研究の増加により、都市の経済成長を図る。
	事業目的		対象をどのような状態にしたいのか 福岡市で水素関連企業がビジネスに取り組む状態		

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	○下水バイオガス由来の水素ステーションの運営 ○FCモビリティの導入促進 ○まちづくりへの水素実装 ○市民への普及啓発	○福岡市の都市型の水素実装が進み、新たな水素利活用プロジェクトが組成される。	○産学官による国プロジェクト等の水素を活用した取組みが市内で行われる。(福岡市で水素関連企業がビジネスに取り組む状態)	○地場企業などの水素関連企業のビジネス拡大や大学との共同研究の増加が期待できる。							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)							
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
国等プロジェクト数	目標	1	1	1	R年度	水素利活用プロジェクト数	目標	2	4	4	R年度
	実績	1	1	1	—		実績	4	7	4	—
	達成率	100.0%	100.0%				達成率	200.0%	175.0%		
	目標				R年度		目標				R年度
	実績						実績				
	達成率						達成率				

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		情報通信業の従業者数 (令和6年度目標値:54,000人)
施策コード	主	6-1-1	
	再	—	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興		
事業群	知識創造型産業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	143,291	
	特定財源	0	
	一般財源	143,291	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	90,165	440,142
	特定財源	0	133,000
	一般財源	90,165	307,142

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	mirai@ 関連事業 (R5:スマートシティ推進事業)		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 少子高齢化の進展による社会課題に対して、AIやIoTといった先端技術等を暮らしや街づくりの様々な場面で活用することで、社会課題を解決し、あらゆる人が快適に暮らせる超スマート社会の実現に向けてチャレンジしていくことが必要のため。			
所管局	経済観光文化局	所管課		企業連携課			
根拠法令	なし						
開始年度	平成28年度	行政計画		なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか AIやIoTといった先端技術等を福岡市内で実証・導入したい民間事業者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 民間事業者の持つAIやIoTといった先端技術等が福岡市内で実証され、市内で実装されることにより、市民が効率的で質の高い行政サービスを将来に渡り享受できている状態。

実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ①先端技術を活用した新たな民間サービスを生み出すための実証実験へのサポート(年間8件) ②市への実装を見据えた新技術を活用した行政サービスの効率化・高質化に資する事業等の実施(年間10件)
------------	--

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 少子高齢化が進展する社会の中でも、AIやIoTといった先端技術等を活用することで、質の高い行政サービスを持続的に維持し、市民が快適に暮らせている環境を保っている状態。
-------------	---

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	①社会課題を解決するための実証実験を支援 ②行政課題を解決するための共働事業等を実施	①8件の実証実験を採択・支援 ②10件の共働事業等を実施	○AIやIoTといった先端技術等を活用したサービスの開発の促進 ○AIやIoTといった先端技術等を活用したサービスの市への実装	福岡市内で実証・実装された新しいAIやIoTといった先端技術等を活用したサービスが様々な分野で活用され、質の高い行政サービスが提供され、市民が快適に暮らせている。						
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)						
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度
民間事業者等からの相談件数(単年)	目標	100	100		R6年度	実績	115	180		R6年度
	実績	164	163	100	100	達成率	139.1%	98.9%	200	200
	達成率	164.0%	163.0%			目標				R年度
	目標				R年度	実績				
	実績					達成率				
	達成率									

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			新設事業所数(R6年度目標値:1,200事業所/年) 施策成果指標
施策コード	主	7-1-1		
	再	7-4-1	2-5-1	
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している			
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり			
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現			
行政運営プラン				
取組方針	1スマート 迅速で便利なサービスへの転換			
推進項目	②AIやIoTなど先進技術の活用			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	1,605	
	特定財源	0	
	一般財源	1,605	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	970	2,526
	特定財源	0	0
	一般財源	970	2,526

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	グローバルスタートアップ推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管局	経済観光文化局	所管課	グローバルスタートアップ推進担当		スタートアップの裾野が広がる中、世界で通用するスタートアップを輩出するためには、グローバル展開を見据えた創業や事業の推進、市内スタートアップと海外スタートアップとの交流・協業が可能となる環境の構築が急務。
根拠法令	なし				
開始年度	平成28年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 創業予定者、スタートアップ、第二創業等
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか グローバル展開を見据えた創業や事業の推進、海外とのビジネス交流が活発な状態。

実施内容(事業手段)	<p>令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか</p> <p>① 国際ビジネスマッチングイベントの開催 海外スタートアップ拠点との連携を活かした国際ビジネスマッチングイベントを対面で開催。</p> <p>② 海外展開研修の実施 福岡市内の起業家やその候補者などを対象に、海外展開を意識した創業や海外ビジネスを現実させるため、海外展開研修事業を経産省事業も活用しながら拡大して実施。</p> <p>③ 国内外イベントへの参加 海外スタートアップイベント等へ出展調整、現地PRイベント開催、主催者調整等</p> <p>④ 海外拠点との連携強化 福岡市から海外展開を目指す市内スタートアップや海外から福岡市への進出を図る外国人創業者等を支援するため、MoUの締結や既存の締結先との関係強化など、グローバルなネットワークを構築。</p> <p>⑤ グローバルスタートアップセンター(相談窓口)の運営 福岡市内スタートアップの海外展開や、海外スタートアップの福岡市進出の相談対応、ビジネスマッチング支援を行う窓口を運営。</p> <p>⑥ 視察対応 海外の視察を積極的に受け入れ、福岡市のエコシステムの周知と福岡市での創業を誘致。</p> <p>⑦ WEBやメールマガジン等による福岡市施策等の情報発信 海外のスタートアップや投資家等に向け、WEB、SNS、メールマガジンにより福岡市の施策等に関する情報発信を実施。</p> <p>⑧ 実証実験 海外スタートアップの福岡市での実証実験の支援を実施。</p>
------------	---

成果(見直し判断基準)	<p>どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか</p> <p>市内スタートアップの積極的な海外展開や、海外スタートアップの本市での創業、海外ビジネス交流の活発化、海外スタートアップの先進的な技術やサービス、プロダクト等の取り込みによる行政や既存企業の課題解決や事業拡大など、グローバルエコシステムが成熟した状態。</p>
-------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトアウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウトアウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトアウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトアウト (その結果、市としてどうなるのか)								
	<ul style="list-style-type: none"> 国際ビジネスマッチングイベントの開催 海外展開研修の実施 国内外イベントへの参加 海外拠点との連携強化 グローバルスタートアップセンター(相談窓口)の運営 視察対応 WEBやメールマガジン等による福岡市施策等の情報発信 実証実験の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 市内スタートアップの海外展開及び優れた技術やサービスを持つ海外スタートアップの福岡市進出のきっかけを創出。 福岡市で起業したい外国人の相談が増加。 研修参加者の海外展開に関する視座が向上。 	<p>グローバル展開を見据えた創業機運が高まる。市内スタートアップによる海外とのビジネス交流が活発化する。</p>	<p>市内スタートアップの積極的な海外展開や、海外スタートアップの本市での創業、海外ビジネス交流の活発化、海外スタートアップの先進的な技術やサービス、プロダクト等の取り込みによる行政や既存企業の課題解決や事業拡大など、グローバルエコシステムが成熟し、都市の成長が促進される。</p>								
	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
	※②結果アウトアウトに対応した指標を設定	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	※③中間アウトアウトに対応した指標を設定	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
活動の指標	スタートアップイベント開催/参加件数	目標	4	4	4	R6年度	市内スタートアップの商談件数	目標	200	200	R6年度	
		実績	15	11	4			実績	237	425	300	
		達成率	375.0%	275.0%				達成率	118.5%	212.5%		300
	海外スタートアップ拠点との連携数(延べ)	目標	15	15	16	R6年度		目標			R年度	
		実績	15	15	16			実績				
		達成率	100.0%	100.0%				達成率				

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点			スタートアップ拠点等との交流・連携数(総数) R6年度中:16拠点・都市
施策コード	主	7-1-1		
	再	7-4-1	8-3-1	
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している			
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり			
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	111,010	
	特定財源	0	
	一般財源	111,010	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	94,416	113,794
	特定財源	0	0
一般財源	94,416	113,794	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	外国人創業活動促進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	経済観光文化局	所管課	グローバルスタートアップ推進担当		《特区制度 H27.12～》国家戦略特区の規制緩和の一つとして、外国人が創業する際の在留資格(経営・管理)の取得に関する規制緩和について、法令関係が改正され施行された。			
根拠法令	なし				《経済産業省制度 H31.1～》外国人起業家が在留資格「特定活動」を活用し、起業準備活動を行うための制度がH30.12から開始され、福岡市はH31.1に経済産業省から全国で初めて実施団体に認定された。			
開始年度	平成27年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市で起業を志す外国人
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 海外から人材の集積や投資の促進を図り、外国人起業家のビジネスを通じてグローバルに展開する企業が増えることで、「グローバル創業都市・福岡」を実現するとともに、新たな雇用が生まれ、地域経済が活性化されることで、都市の成長が促進される。

実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で行ったのか ○外国人への広報 ○事業計画の確認、活動確認証明書の交付 ・外国人の事業計画が一定期間内に要件を満たす見込みがあるのかなどについて、中小企業診断士に診断を依頼し、市が確認を行う。 ・見込みのある外国人に対して、市が活動確認証明書を交付する。 ○事業計画の進捗確認 ・一定期間、事業計画の進捗を確認し、状況に応じてコンシェルジュ等が支援を行う。 ・進捗が良好でない場合は、本国に帰国を促す。 ○グローバルスタートアップセンター(FGN内)にて、外国人の起業相談の受付や支援を実施 ・申請者の相談内容に応じて、申請の補助や必要な関係先につなぐなど、伴走支援を行う。
-------------------	--

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 外国人起業家の増加や、外国人起業家と市内スタートアップの交流・協業を通して、新しいビジネスが生まれ、グローバル展開する企業が増加し、福岡市がアジアNo.1のスタートアップ都市として国内外に広く認知された状態。
--------------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	・起業を志す外国人へ制度の周知を行う。 ・起業を予定している外国人に対して具体的な事業計画等を確認する。	本制度を利用し、市内で起業しようとする外国人が増える。	市内で起業した海外スタートアップが増える。外国人起業家と市内スタートアップの交流・協業が増える。	新しいビジネスの創造や、グローバル展開する企業の増加などを通して、新たな雇用が創出され、地域経済が活性化される。	
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度
申請件数	目標	20	20	20	R 年度
	実績	14	18	10	—
	達成率	70.0%	90.0%	100.0%	110.0%
	目標				R 年度
	実績				
	達成率				

基本計画(政策推進プラン)				
事業区分	重点		施策成果指標	
施策コード	主	7-1-1		
	再	8-5-1		
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している			
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり			
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳出		5,678	
歳入	特定財源	4	
	一般財源	5,674	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R4	R6
歳出		5,462	8,055
歳入	特定財源	7	9
	一般財源	5,455	8,046

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	商店街チャレンジ応援プロジェクト			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 市内商店街には、チャレンジする意欲はあるが、担い手や資金の不足等により取り組みが困難な商店街もあるため、本事業により、商店街同士の横のつながりや商店街(内部の人)と外部の人を結び付けて、商店街のさまざまなチャレンジを応援するもの。			
所管局	経済観光文化局	所管課	地域産業支援課					
根拠法令	なし							
開始年度	平成30年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 商店街	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 商店街活性化に実績のある事業者には運營業務を委託し、人材育成を目的とした勉強会の開催や、参加者が提案する商店街の課題解決につながる企画の実施支援を行うことにより、商店街が抱える課題の解決を図る。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 中小企業者の持続的発展が促進され、商店街の振興がなされた状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 商店街の振興を図ることにより中小企業の持続的発展を促進する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)												
	商店街活性化に実績のある事業者には運營業務を委託。	商店街が抱える課題や、商店街を取り巻く環境を探る。	商店街の課題解決や活性化に向けた提案を行い、実行する。	中小企業の持続的発展が促進される。												
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定											
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度					
	人材育成事業への参加者数(人)	目標	20	20	30	R年度	目標	90.0	90.0	90.0	R年度	目標	90.0	90.0	90.0	R年度
		実績	15	14	30	—	実績	100.0	92.6	90.0	—	実績	100.0	92.6	90.0	—
		達成率	75.0%	70.0%	—	—	達成率	111.1%	102.9%	—	—	達成率	111.1%	102.9%	—	—
	企画支援事業における企画の実施数(件)	目標	未実施	3	3	R年度	目標	未実施	90.0	90.0	R年度	目標	未実施	90.0	90.0	R年度
		実績	—	3	3	—	実績	—	65.0	90.0	—	実績	—	65.0	90.0	—
		達成率	—	100.0%	—	—	達成率	—	72.2%	—	—	達成率	—	72.2%	—	—

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点			施策成果指標	①全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合 ②市内中小企業従業者における正社員・正職員数と割合 ③売上が令和2年3月と同等以上である中小企業の割合
施策コード	主	6-3-2			
	再	—			
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている				
施策	地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化				
事業群	商店街の活性化				
行政運営プラン					
取組方針	—				
推進項目	—				

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出		7,549
	歳入	特定財源	0
		一般財源	7,549
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	4,904	6,561
	特定財源	0	0
	一般財源	4,904	6,561

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	商店街社会課題解決型補助金		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管局	経済観光文化局	所管課		地域産業支援課	商店街は、地域住民の暮らしを支える買い物の場を提供する「地域経済の担い手」であるとともに、地域の交流・にぎわいの場を提供する「地域コミュニティの担い手」として、地域の活力を支える重要な存在である。しかしながら、近年は郊外型商業施設の増加や、少子化・高齢化等の社会構造の変化など、商店街を巡る環境は大きく変わってきている。このような状況を踏まえ、地域住民の需要に応じた取り組みに対し、商店街が行う少子化・高齢化等の社会課題の解決に向けた取り組みへの支援施策を行っている。
根拠法令	福岡市商店街社会課題解決型補助金交付要綱				
開始年度	平成25年度	行政計画		なし	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 商店街	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 商店街が行う少子化・高齢化等の社会課題に対応した集客力向上、及び売上増加の効果のある事業に対して、その対象経費の一部を補助する。	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 中小企業者の持続的発展が促進され、商店街の振興がなされた状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 商店街が行う少子化・高齢化等の社会課題の解決に向けた取り組みを支援することで、商店街の活性化と地域が抱える社会課題の解決を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	商店街が行う少子化・高齢化等の社会課題に対応した集客力向上、及び売上増加の効果のある事業に補助金を交付する。	商店街が補助金を活用して事業を実施する。	商店街の集客力向上、及び売上増加につながる。	中小企業の持続的発展が促進される。							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績		目標		指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定	実績		目標		
	活動の指標	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度
補助金の活用件数	目標	4	3	3	R 年度	補助金を活用した商店街の来街者の増(%) ※R7実態調査にて検証予定	目標	5%増	5%増	5%増	R 年度
	実績	3	2		—		実績	継続調査中	継続調査中		—
	達成率	75.0%	66.7%		—		達成率	—	—		—
	目標				R 年度		目標				R 年度
	実績					実績					
	達成率					達成率					

基本計画(政策推進プラン)

事業区分	重点		施策成果指標	①全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合 ②市内中小企業従業者における正社員・正職員数と割合 ③売上が令和2年3月と同等以上である中小企業の割合
施策コード	主	6-3-2		
	再	—		
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている			
施策	地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化			
事業群	商店街の活性化			
行政運営プラン				
取組方針	—			
推進項目	—			

事業費(千円)

令和5年度決算額(見込額)			
歳出		2,660	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	2,660	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R4	R6
歳出		6,000	6,083
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	6,000	6,083

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	デジタル・IT活用による生産性向上のためのトータルサポート(生産性向上のための人材育成事業を統合) (R5: 中小企業デジタル化サポート事業(オンライン活用による事業再構築サポート事業・企業間取引デジタル化推進事業を統合))			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管局	経済観光文化局	所管課	経営支援課		【オンライン活用】時代の変化に対応するためには、新分野展開・業態転換・業種、事業転換・事業再編などの事業再構築を検討する際にオンラインの活用が効果的であるが実行されていないことによる。			
根拠法令	なし				【企業間取引デジタル化】事業者間の取引については、デジタル化がなされておらず、労働生産性の低下を招く要因のひとつと考えられるため、その課題を解決する必要があることによる。			
開始年度	令和3年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市内中小企業者	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・デジタル化の必要性や成功事例等をテーマとしたセミナーや導入及び活用に向けた専門家による伴走型支援を実施	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 【企業間取引デジタル化】企業間取引をデジタル化している企業割合90%
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 受発注業務や営業活動のデジタル化による生産性向上				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	セミナー等を通じた広報活動によって、デジタル化した場合の業務効率化の効果等やオンライン活用した販路拡大事例について周知し、市内中小企業に対してデジタル化の意識啓発を行う。	IT専門家を市内中小企業に派遣し、受発注業務を主とした企業間取引のデジタル化やITツールを活用した販路開拓等を支援する。	既存の営業方法以外の手段を導入することで販路開拓を図ることができる。また、業務効率化によって削減できた労働時間を、営業等の付加価値を上げる取組みに充てることで生産性の向上を図ることができる。	市内各企業の労働生産性が上がることにより、市内総生産の増加が期待できる。							
	指標の内容 ※②結果アウトプットに対応した指標を設定	実績	目標	成果の指標(KPI)							
	活動の指標	実績	目標	指標の内容 ※③中間アウトカムに対応した指標を設定							
	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	
	目標	300	250	—	R 年度	【企業間取引デジタル化】	目標	70.0	90.0	—	R 年度
	実績	301	252	—	—	企業間取引をデジタル化している企業割合	実績	83.0	89.0	—	—
	達成率	100.3%	100.8%	—	—	達成率	達成率	118.6%	98.9%	—	—
	目標	—	—	—	R 年度	目標	—	—	—	R 年度	
	実績	—	—	—	—	実績	—	—	—	—	
	達成率	—	—	—	—	達成率	—	—	—	—	

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		
施策コード	主	6-3-1	
	再	—	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化		
事業群	中小企業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)			
令和5年度決算額(見込額)			
歳入	歳出	14,856	
	特定財源	0	
	一般財源	14,856	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R4	R6
	歳出	19,990	22,959
	特定財源	0	0
一般財源	19,990	22,959	

事務事業マネジメントシート（令和5年度実施分）

事業名	商工金融資金・金融対策、経営支援施策普及事業、金融事務費、経営相談・診断助言事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 中小企業は、大企業と比較すると、金融機関からの融資など、新たな資金調達に困難である場合が多く、資金調達を支援するため。併せて、各種相談受付により、経営の安定等を図るため。
所管局	経済観光文化局	所管課	経営支援課		
根拠法令	なし				
開始年度	昭和24年	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡市内で事業を営む中小企業者	実施内容(事業手段)	令和5年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○ 制度改正の実施 ・経営力強化資金を経営改善サポート資金に改定し、経営改善・事業再生の取り組みを支援 ・創業支援資金における経営者保証を不要とする取扱いを開始し、創業時に信用保証を受ける場合に経営者のリスクを軽減 ○ 十分な融資枠の確保: 令和5年度融資枠約4,550億円 ○ 施策案内及びアンケート調査調査(案内)件数: 8,000件 ○ 相談窓口の運営: 相談件数7,517件(経営、金融、返済、受発注の全相談合計) ○ 専門家派遣事業: 派遣回数: 5社、13件	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 中小企業は、大企業と比較すると自己資金が少なく信用力が低く、金融機関からの融資など新たな資金調達に困難である場合が多いため、継続して支援を実施していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 長期・低利・固定金利の融資制度で金融機関からの資金調達を支援することにより、中小企業者の経営基盤の強化を図るとともに、経営相談や専門家派遣などの支援により、経営の安定化や事業の拡大等を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																							
	・融資制度の充実強化 ・十分な融資枠の確保 ・経営支援施策普及事業 ・相談窓口の充実	・市内中小企業者の資金調達の円滑化	・資金繰DIの改善継続 ・倒産件数増加の抑制	・中小企業の振興、経済の活性化																																							
	指標の内容	実績	指標の内容	実績																																							
	※②結果アウトプットに対応した指標を設定 経済対策資金を除く新規貸付件数(制度融資は民業補充が基本であり、本指標は制度の進捗評価には直結しない) 施策案内及びアンケート調査調査(案内)件数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2,750</td> <td>2,803</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	—	—	—	R 年度	実績	2,750	2,803	—	—	達成率	—	—	—	—	※③中間アウトカムに対応した指標を設定 経済情勢に左右されることから適切な指標を設定することが困難なため	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>	年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度	目標	—	—	—	R 年度	実績	—	—	—	—	達成率	—	—	—
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																							
目標	—	—	—	R 年度																																							
実績	2,750	2,803	—	—																																							
達成率	—	—	—	—																																							
年度	R4年度	R5年度	R6年度	最終年度																																							
目標	—	—	—	R 年度																																							
実績	—	—	—	—																																							
達成率	—	—	—	—																																							

基本計画(政策推進プラン)			
事業区分	重点		施策成果指標
施策コード	主	6-3-1	
	再	—	
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化		
事業群	中小企業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	—		
推進項目	—		

事業費(千円)		
令和5年度決算額(見込額)		
	歳出	190,146,057
歳入	特定財源	189,660,784
	一般財源	485,273
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R4
	歳出	209,554,270
歳入	特定財源	209,154,968
	一般財源	399,302
	R6	173,362,295
	歳出	171,721,001
	一般財源	1,641,294